

国際人間科学部環境共生学科 2020年度新入生の皆さんへ

環境共生学科長 浅野慎一

1. はじめに

環境共生学科の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。心より歓迎します。
ここでは、環境共生学科での学修に必要な最小限の情報を示します。よく読んでください。

2. 担任について

環境共生学科の新入生には、「担任教員」がいます。
「担任教員」は、大学での学修・生活全般にわたり、学生が気軽に相談できる教員です。
また1年生の必修科目である「初年次セミナー」と「グローバルイシュー演習」の担当者でもあります。
「担任教員」は、皆さんの学籍番号によって、次の表のとおりです。

学籍番号 下3桁	担任教員
002-015	浅野慎一
016-030	蘆田弘樹
031-044	伊藤真之
045-058	丑丸敦史 太田和宏
059-072	大串健一 丑丸敦史
073-085	太田和宏 大串健一

教員のメールアドレスは、<https://www.fgh.kobe-u.ac.jp/ja/node/48> を参照。

3. 教務関係のお知らせ

別紙「2020年度国際人間科学部 環境共生学科 新入生ガイダンス 教務関係について」を御覧ください。
なお、履修・教務情報、及び、Global Studies Program(GSP)の詳しい説明は、5月8日(金)2限目(10時55分～)の「初年次セミナー」の授業内で行います。必ず聴講してください。

4. 環境共生学科の学修について

環境共生学科における学修の基本的なまとまりは、「プログラム」と「ゼミ(研究室)」です。

(1) プログラム

- ・プログラムとは、専門的な学修・研究のためのグループです。また教職免許を取得する人にとっては、そのためのグループでもあります。つまり、単なる「履修モデル」ではなく、より実質的な学修・研究のまとまりといえます。
- ・環境共生学科には、4つのプログラムがあります。①環境自然科学、②環境数理科学、③生活共生科学、④社会共生科学です。それぞれのプログラムの概要や特徴、魅力は、これから様々な学科必修科目を受講していけば、次第にわかってきます。また「初年次セミナー」の中でも各プログラムの概況を説明します。
- ・皆さんは2年生になると、4つのプログラムの中から1つを選び、そこに所属します。
そこで皆さんは、1年生の時から、「2年生になったら、どのプログラムへの所属を希望するか」をある程度、考えながら様々な授業科目を履修していく必要があります。それぞれのプログラムが履修を

必要としている授業科目名は、後に示します。

- ・1年生の終わり頃、「プログラム志望調査」を実施し、それをふまえて2年生でのプログラム配属を決定します。

各プログラムには、最大受け入れ人数が定められています。

環境自然科学プログラム 30名

環境数理科学プログラム 20名

生活共生科学プログラム 25名

社会共生科学プログラム 25名

各プログラムの希望者数が最大受け入れ人数を上回った場合、選抜作業時点のGPA (grade point average) 等にもとづき、総合的に判断し、選抜します。

なお環境共生学科の新入生は全部で81名です。

- ・各プログラムの主任は、下記のとおりです。それぞれのプログラムについて質問がある人は、主任までメールでお問い合わせください。

環境自然科学プログラム主任 伊藤真之

環境数理科学プログラム主任 宮田任寿

生活共生科学プログラム主任 佐藤真行

社会共生科学プログラム主任 太田和宏

教員(主任を含む)のメールアドレスは、<https://www.fgh.kobe-u.ac.jp/ja/node/48> を参照。

(2) 研究室(ゼミ)

- ・皆さんは3年生になると、多数の研究室(ゼミ)の中から1つを選び、そこに所属します。
- ・研究室(ゼミ)とは、大学における最も専門的な学修・研究の集団です。一人の教員が、一つの研究室(ゼミ)を担当しています。研究室(ゼミ)の教員は、3年生・4年生(卒業論文・必修)の主な指導教員となります。
- ・2年生の終わり頃、各プログラムの中で、「研究室(ゼミ)志望調査」を実施し、それをふまえて3年生以降の研究室(ゼミ)配属を決定します。研究室(ゼミ)は、所属するプログラム内で選択します。だから、2年次のプログラム選択はくれぐれも慎重にしてください。
- ・各研究室(ゼミ)には、原則として1学年4名という最大受け入れ人数が定められています。したがって、それは、極めて少人数の集中的・双方向的・専門的な学修・研究の集団です。希望者が4名を上回った場合、各プログラムの規定にもとづき、選抜します。研究室(ゼミ)配属に際して、所属プログラムの授業科目を中心に履修したうえで、希望する研究室(ゼミ)担当教員の要望をふまえる必要があります。

(3) 各プログラム・研究室(ゼミ)の所属において重視する授業科目一覧

環境自然科学プログラム

- 青木 茂樹 物理学系を中心とする理系専門基礎科目および環境自然科学プログラムの学科コア科目の幅広い履修
- 蘆田 弘樹 生物学概論A1・A2、環境生命科学A・B、環境基礎科学実験B1・B2(主に生物)
- 伊藤 真之 物理学系の共通専門基礎科目、環境物理学A・B、宇宙環境物理学、環境数値解析、環境基礎物理学A・B、環境応用科学実験D1・D2(環境物理学)等の履修が好ましい
- 丑丸 敦史 生物学概論A1・A2、環境生命科学A・B、環境基礎科学実験B1・B2(主に生物)

江原 靖人	環境生命化学、環境基礎科学実験 C1・C2（主に化学）など化学系の科目と実験
大串 健一	惑星学D、基礎地学1・2、環境基礎科学実験 A1・A2（主に地学）
近江戸 伸子	環境資源植物科学、環境生命科学A、環境基礎科学実験 B1・B2（主に生物）
佐藤 春実	化学系の共通専門基礎科目、環境高分子化学、環境物質科学A・B、環境基礎科学実験 C1・C2（主に化学）
高見 泰興	生物学概論 A1・A2、環境生命科学A・B、環境基礎科学実験 B1・B2（主に生物）
田中 成典	生物学概論 A1・A2、環境生命科学A・B、または物理学系共通専門基礎科目
谷 篤史	地球環境物理学のほか物理学系の共通専門基礎科目
源 利文	生物学概論 A1・A2、環境生命科学A・B、環境基礎科学実験 B1・B2（主に生物）、生物多様性科学
窪田 薫	惑星学D、基礎地学1・2、環境基礎科学実験 A1・A2（主に地学）

環境数理学プログラム

稲葉 太一	数理学基礎、数理学入門（統計系）の履修
桑村 雅隆	数理学モデルプログラミング、数理学入門（解析系）の履修
阪本 雄二	数理学基礎、数理学入門（統計系）の履修
長坂 耕作	数理学モデルプログラミング、数理学入門（代数系）の履修
宮田 任寿	数理学基礎、数理学入門（幾何系）の履修

生活共生科学プログラム

井上 真理	衣環境論の履修
大野 朋子	緑地環境論、地域景観生態論の履修
佐藤 真行	環境政策論、環境経済学の履修
田畑 智博	地域環境資源論、環境システム設計論の履修
平山 洋介	生活空間計画論、住環境論の履修
福田 博也	アプライアンス環境論またはスマートライフサイエンスの履修
白杉 直子	食環境論A、食環境論B（2021年3月退職予定）

社会共生科学プログラム

井口 克郎	福祉環境システム論、地域復興政策論の履修
岩佐 卓也	労働環境史、グローバル経済環境史の履修
太田 和宏	グローバル開発政策論、グローバル平和論の履修
澤 宗則	人文地理学、グローバル都市地域論、フィールドワーク実習の履修
橋本 直人	環境思想史、グローバル平和論の履修
浅野 慎一	環境社会学、社会環境変動史、社会文化環境論（2022年3月退職予定）
原 将也	途上国農村地域開発論、地域社会共生論の履修

(4) その他、各プログラムからの注意事項

環境自然科学プログラム

環境自然科学プログラム希望者への履修推奨科目

- ・共通専門基礎科目

【共通】どの学問分野でも数学や統計の知識は役立ちます。

線形代数 1, 2, 3, 4、微分積分 1, 2, 3, 4、数理統計 1, 2

これ以外に入門科目もあります。

【物理】力学基礎 1, 2、電磁気学基礎 1, 2、連続体力学基礎、熱力学基礎

【化学】基礎無機化学 1, 2、基礎有機化学 1, 2

【生物】生物学概論 A1, A2、生物学各論 A1, A2、生物学各論 C1, C2

【地学】基礎地学 1, 2、惑星学 D

・学科共通科目

地球環境学 1(配当学期 3 クォーター)、地球環境学 2(4 クォーター) 選択科目

環境数理科学プログラム

環境数理科学プログラム希望者に推奨する 1 年次の科目（共通専門基礎科目）は、次のとおりです。

数理科学における多くの計算の基礎：

線形代数 1(1 クォーター)、線形代数 2(2 クォーター)、線形代数 3(3 クォーター)、

線形代数 4(4 クォーター)

現象の変化を捉える概念の基礎：

微分積分 1(1 クォーター)、微分積分 2(2 クォーター)、微分積分 3(3 クォーター)、

微分積分 4(4 クォーター)

データを分析するための理論を学ぶ：

数理統計 1(3 クォーター)、数理統計 2(4 クォーター)

社会共生科学プログラム

・社会共生科学プログラムを希望するみなさんには、倫理学（橋本直人、1 クォーター）と 外国史（岩佐卓也、2 クォーター）、人文地理学（澤宗則、3 クォーター）、法律学（山口治男、4 クォーター）の履修を薦めます。

・中学社会、高校地歴、高校公民教員免許取得を希望する人は、以下の集中講義科目はできるだけ早めに履修してください

「社会科教育論 A1・A2」 「社会科教育論 B1・B2」 「公民科教育論 1・2」

「社会科・公民科教育論 1・2」 「地歴科教育論 1・2」 「社会科・地歴科教育論 1・2」

(5) 所属プログラム・研究室(ゼミ)変更について

所属したプログラムや研究室(ゼミ)を変更したい場合、次の 3 つの条件を満たせば、これを認めます。

【プログラム変更】

- ・ 2 年生の第 2・第 4 クォーターそれぞれの試験期間中に学科長に変更願いを提出すること。
- ・ 希望先プログラムの所属現員数が最大受け入れ人数を下回っていること。
- ・ 希望先プログラム主任が面接審査し、変更が可と認めること。

【研究室(ゼミ)変更】

- ・ 同じプログラム内での研究室変更の場合はプログラム主任、異なるプログラムの研究室変更の場合は学科長に、変更願いを提出すること。申請の時期は、特に定めない。
- ・ 希望先研究室(ゼミ)の所属現員数が原則として 4 名以下であること。
- ・ 希望先研究室(ゼミ)の教員が面接審査し、変更が可と認めること。

5. おわりに

・ 現在、新型コロナウイルス感染の広がりにより、大学からの重要な情報の伝達方法が、極めて限定されています。

そこで、大学・学部のホームページをこまめに確認してください。

学番メールも、必ず頻繁に確認してください。大学関係の連絡は、すべて学番メールに届きます。

- ・その他、何か疑問・質問がありましたら、学科長の浅野慎一までメールでお問い合わせください。
メールアドレスは、<https://www.fgh.kobe-u.ac.jp/ja/node/48> を参照。